

第1回 マイクロ波委員会議事録

1. 日 時 : 平成13年12月20日(木) 18:30~21:00
2. 場 所 : 連盟事務局3F会議室
3. 出席者 : (専務理事)竹内 俊晴,
(委員長)種村 陽亜,(委員)明山 哲,成澤 融,楨岡 寛幸,釘宮 昌平,
荒井 義浩(敬称略・順不同)
(事務局)森,近藤,高梨
4. 配布資料:
 - 1-1 技術委員会の再編について(第447回理事会 協議事項)
 - 1-2 技術委員会の再編に伴う委員会の設置について(第448回理事会)
 - 1-3 意見聴取の結果について
 - 1-4 2.4GHz帯高度化方策委員会報告概要
 - 1-5 2.4GHz帯を使用する無線システムの高度化
 - 1-6 54メガ出る無線アクセス「MMAC」
 - 1-7 アマチュア局が動作することを許される周波数帯を変更する告示改正の概要
 - 1-8 2000年世界無線通信会議の決定による
アマチュア業務の周波数分配の変更無線通信規則(RR)国際周波数分配表から

竹内専務理事から技術委員会及び関連分科会の再編成についての説明の後、「マイクロ波委員会」にお願いする具体的な作業内容について説明が行われた。また、専務から会長からのコメントとして「マイクロ波帯を活性化し、局数を増やすことでこの周波数帯の防衛を図って欲しい」と伝えられた。引き続き各委員と専務との間で質疑応答が別紙のとおり行われた。

5. 議 事 :

- (1) マイクロ波帯アマチュアバンドを取り巻く環境について
 - ・ 楨岡委員から、「マイクロ波委員会の目的、具体的な作業内容を最初に明確にして頂きたい」との阿部委員からの伝言が伝えられた。
 - ・ メーリングリストを活用して委員会の課題を順次処理していくこととする。
 - ・ マイクロ波の人数を大幅に増やすことは大変困難なことではあるが、マイクロ波の入門バンドである1200MHz帯を活性化しなければ、さらに上の周波数帯の活性化はあり得ないのではないか。
 - ・ バンドの防衛の戦略的な対応についての議論が必要である。
 - ・ アマチュア無線局は減少傾向にある。アマチュア無線の底辺を広げなくてはマイク

口波帯の活性化はあり得ないのではないか。

- ・ 会員、非会員の区別無く（特に子供たちに）マイクロ波の楽しみについて啓蒙する場を設ける必要がある。
- ・ 理事会からの諮問事項である「マイクロ波帯活性化の施策検討と実施」、「活性化」とは何のために活性化するのか抽象的でわかりにくい。衛星、レピータ、デジタル化等、具体的に活性化するための対象を絞る必要があるのではないか。
- ・ バンド防衛とは全部のバンドを死守するものなのか、使い勝手のよいバンドをより良くするためのものなのか明確にする必要がある。
- ・ マイクロ波委員会の目的は「周波数防衛のためなのか」、「マイクロ波を使用した先端の技術を広めるのか」、「JARL 会員を増やすためなのか」、何のためにマイクロ波帯を「活性化」するのか。理事会の考える「活性化」を明確にして欲しい。
- ・ コンテスト委員会とは各論の部分でいろいろとやり取りはある。今年度中に結論をだして、来年 8 月を目処にマイクロ波コンテストを実施することで作業を進めている。
- ・ 「活性化」について、一般の方々の考えを聴取してはどうか。その結果を JN 等に掲載してはどうか。
- ・ 検討事項についてはスケジュールで期限を決め作業を進める。作業はメーリングリストを活用し、全ての内容は委員長がまとめることとなった。

【 課 題 】

- ・ 次回までに各委員はマイクロ波帯活性化の具体的な「方策」を提示することとなった。

(2) その他

- ・ 現在、連盟には ARDF、コンテスト、アワード、レピータ委員会、周波数委員会、技術政策、電磁環境、マイクロ波、次世代通信委員会の 9 委員会が設置されている。
- ・ 当委員会が検討する「マイクロ波帯活性化、バンド防衛」については、周波数委員会に対して具体的な提言を行うこととする。

以上